

建築計画 (Architectural Planning)

担当教員名	工藤 和美	
学科・専攻, 科目詳細	建築学科 5年 前期 2単位 学修単位 演習	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-1(25%) E-1(25%) H-1(50%)
	JABEE基準1(1)	(a)(d)(f)
科目の概要	建築計画 1,2 の学習成果の上に、より広範な観点から建築計画を考究し、今日の具体的な問題を解決するための知識と計画技術を学習する。建築計画における多様な問題や考え方、取り組みについてそれを取り巻く様々な社会的視点を取り上げ事例を通して考察する。また、環境に関わる建築計画における現代的課題に関する理論、手法についても学ぶ。室津（江戸時代参勤 交代で栄えた港町、兵庫県たつの市）において歴史、町並み、景観の観点から現地調査をおこない、報告書を作成する。	
テキスト(参考文献)	空間学事典/日本建築学会/井上書院 他は授業ごとに作成した資料を配付する。	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が180時間に相当する学習内容である。建築計画の応用的な考え方を身につけ、卒業研究等において総合化できるよう取り組むこと。見学旅行においては、室津の課題のヒントとなるものを収集すること。建築史と都市地域計画の履修が望ましい。	
科目の達成目標	(1) 住宅や建築、都市を計画する際、重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や技術を習得する。(学習教育目標 (A-1)) (2) 講義で得られた建築計画の応用的な知識や考え方を基礎に、課題テーマに対して自分の考えをまとめ、意見発表する能力を習得する。(学習教育目標 (E-1)) (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築計画理論を理解し、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響の蓄積を背景に組み立てられた建築計画の考え方の要点を修得する。(学習教育目標(H-1))	
自己学習	目標を達成するためには、授業以外にレポート等の課題に積極的に取り組むこと。教科書や配付資料を利用して学習すること。 自己学習の課題は次の通りである。1) 与えられたテーマに即したりサーチを基に都市、建築空間を創造的に発見すること。2) 見学旅行において課題とヒントとなるものを収集し、計画の提案をレポートすること。3) 都市や建築空間についての学習や見学を基に考えが述べられること。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	(1) 建築計画理論において自然や社会との共生に係る事項の理解について、定期試験 (60%) とレポート (40%) により評価する。(前期後半) (2) 建築計画の応用的な課題に関するポスター及びその発表 (70%) と、レポート及びその発表(30%) により評価する。(後期前半) (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築設計理論、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響に関する事項の理解について定期試験 (60%) と、レポート (40%) により評価する。(前期前半・後期後半)	
	成績は上記 (1) を 25%、(2) を 25%、(3) を 50%で評価し、総合評価として 60%以上達成した者を合格とする。	
連絡先	sakato@akashi.ac.jp, kkudoh@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	ガイダンス 前期授業の狙いと、建築や都市が抱える現代的課題を、事例を通じて概説する。
第2週	都市問題のはじまりといま 都市問題のはじまりから、近代都市と建築について考察する。現代の都市問題についても言及する。
第3週	近代の都市と建築（その１） 田園都市からアテネ憲章（CIAM）の都市論を中心に、建築家が提案したモダニズムの理想都市の背景と、現代の都市と建築の関連について考察する。
第4週	近代の都市と建築（その２） モダニズムの建築思想を中心に再考する。近代建築が目指したもの、排除したものは何かを考える。
第5週	現代の都市と建築（その１） 現代の日本の建築が置かれた状況と、取り組むべき課題について考察する。建築・都市がもたらした問題と、現代の環境問題について考察する。
第6週	現代の都市と建築（その２） 現代の日本の都市が抱える諸問題 都市のパブリクスペースの役割、広場の成り立ち、サードプレイスの意味について学ぶ。
第7週	都市の共同空間 アジア、ヨーロッパ、アフリカの広場や共同空間について事例を通して学ぶ。
第8週	中間試験
第9週	都市の文脈 文脈という考え方と、計画の手がかりとなる都市や地域の特性を見出す視点。
第10週	集落空間とデザイン 集落の空間構造とランドスケープについて、地域資源を 活かし た まちづ くりの 方法
第11週	建築と社会の課題 少子化と都市の問題
第12週	景観と地域環境 地域の環境をつくる景観保全について
第13週	フィールドワークの方法 計画の手がかりを発見するフィールドワークの手法
第14週	サードプレイスと建築 事例を調査し、空間的特徴と思想について考察する。
第15週	都市と建築の今日的課題 テーマを設定してグループ毎にプレゼンテーションを行う。
期末試験	